

## 13 市町教育委員会における特別支援教育の推進

平成 25 年度に特別支援教育専門講習会を開催した柳井市においては、「特別支援教育推進週間」を設定し、全市をあげて特別支援教育の推進に取り組んでいますので、その取組を紹介します。

### <特別支援教育推進週間の設定>

平成 25 年度 11 月 11 日（月）～11 月 15 日（金）

平成 26 年度 6 月 2 日（月）～ 6 月 6 日（金）

11 月 17 日（月）～11 月 21 日（金）

### <具体的な取組内容>

平成 25 年度

- 特別支援教育の視点から学習環境や指導方法、教材についての見直し、改善を図る。
- 学習環境や指導法等について、各教員が日頃の取組の現状を把握できるよう、チェックシートを作成。
- チェックシートについては、市内の小学校、中学校で使用されていたものなどを参考に、柳井市教育委員会特別支援教育推進室で作成し、各学校に配付。
- 各学校では、チェックシートを活用して、各自で点検・評価を実施。
- チェックシートの結果をグラフ化し、重点課題を明確化。
- 特別支援教育推進週間の初日にチェックシートで改善点を把握し、最終日に改善できたかどうかを確認。

平成 26 年度

- 「通常の学級における特別支援教育の充実に向けて（山口県教委）」を活用して各学校の取組の見直し、改善を図る。

### <取組の成果>

- チェックシートを活用し、自己評価することによって、各項目を意識しながら実践し、改善につなげることができた。
- 日頃の実践を特別支援教育の視点から、改めて見直す機会とすることができた。
- 「特別支援教育」を主眼に置いた校内研修を行うことができた。
- 通常の学級に在籍する配慮や支援が必要な生徒に対する対応について、具体的に協議することができた。
- 教職員からの感想（一部の学校で行ったアンケート結果を抜粋し要約したもの）
  - ・ 普段の授業を振り返るきっかけになった。
  - ・ これまでの取組では、十分に配慮していないことが分かり、参考になった。
  - ・ チェックシートの項目は、すべての児童生徒にとって大切なことなので、時々チェックしたいと思った。
  - ・ 推進週間を通じて学習環境を変えていくことができた。

- ・全校で取り組む推進週間を設けたのは、共同実践を進める上でよいと思う。
- 各学校の取組から次の①～③のような成果があったと考えられる。
  - ① 教職員の特別支援教育に対する意識の向上が見られた。特別支援教育は、特別支援学級に在籍する児童生徒のためだけではなく、通常の学級に在籍する特別な配慮や支援が必要な児童生徒、さらには、すべての児童生徒にとって分かりやすい授業等の効果をもたらすことを全教職員が再認識する機会となった。
  - ② 特別支援教育に関する校内研修を行うことで、教職員の専門性の向上につながった。また、ケース会議等の開催により、特別な配慮や支援が必要な児童生徒への適切な対応について協議を行うことができた。
  - ③ 学習環境の整備や指導法の工夫など、教職員間で互いの実践を紹介し合うことで、学級経営や教科における指導についての改善を行うことができた。

## <チェックシート>

平成 25 年度

### 柳井市特別支援教育推進週間 自己評価 チェックシート

特別支援教育の視点から、先生方の日頃の取組を自己評価するためのチェックシートです。学習環境の整備や指導方法の工夫など、改善に向けて御活用ください。

◎:意識して行っている ○:行っている △:行っていない

チェックポイント		◎ ○ △
1	教室の全面、特に黒板のまわりはすっきりとしていますか。 不必要な刺激を取り除き、黒板に集中しやすい環境をつくることができます。また、集中しやすい座席位置にも配慮が必要です。	
2	教室は整理整頓されていますか。 落ち着いた環境をつくることができるとともに、事故等の防止にもなります。また、基本的な生活習慣を身につけさせることもできます。	
3	学習のめあてや見通しを示して授業を進めていますか。 学習に見通しをもたせ、落ち着いて学習に取り組ませることができます。板書やプリントに活動に順番をナンバリングするなど視覚的に示すことも大切です。	
4	説明や指示のとき、視覚的に示していますか。 文字、図などの視覚的な手がかりによって理解を促します。視聴覚教材の活用が有効な場合もあります。	
5	説明や指示のとき、話し方に工夫をしていますか。 同じ内容でも、声の大きさ、抑揚、速さによって伝わり方は異なります。指示は短い言葉で具体的に言うことが大切です。しっかりと聞かせることも必要です。	
6	分かりやすい板書を心がけていますか。 板書計画を立て、整然とした板書を行うことが必要です。枠囲みや印、チョークの色など、あらかじめ約束事(…のときは、○色で書くなど)を決めておくことが大切です。	
7	授業に必要な物だけを机の上に置かせていますか。 学習に集中して取り組ませることができ、作業に必要なスペースを確保することができます。机上から物が落下するのを防止できます。	
8	ノートやプリントが書けない生徒に声かけをしていますか。 指示が伝わっていないことや見通しが立っていない場合があります。つまづきを見つけ、具体的な言葉で助言をします。生徒は先生に声をかけられると安心することでしょう。	
9	学習(学級)のルールが全員に分かるようにしていますか。 認識の違いによる混乱やトラブルの防止のため、ルールは全員が分かるようにします。視覚的な情報を併用しながら手順を追って伝えることが大切です。	
10	肯定的に評価をしていますか。 子どもを不安定にしたり意欲を失わせたりしないような配慮が必要です。失敗したことを全体の場で叱責すると逆効果の場合があります。ただし、危険な行動には、毅然とした態度で制止してください。	

平成 26 年度

## 柳井市特別支援教育推進週間 チェックシート(1週目)

『通常の学級における特別支援教育の充実のために』P3～4のチェックリストについて、取り組んでいる項目がいくつありますか？(担任として、あるいは、副担任・学年主任として担任と共に)

チェックポイント		取組数
1	<b>集中しやすくする</b>	/14
	不必要な刺激を取り除き、黒板に集中しやすい環境をつくることができます。また、集中しやすい座席位置にも配慮が必要です。	
2	<b>トラブルを防ぐ</b>	/10
	落ち着く環境をつくることができるとともに事故等の予防にもなります。また、基本的な生活習慣を身に付けさせることもできます。	
3	<b>見通しをもちやすくする</b>	/8
	活動に見通しをもたせ、落ち着いて活動に取り組ませることができます。板書やプリントに活動の順番をナンバリングするなど視覚的に示すことも大切です。	
4	<b>安心できる学級づくり</b>	/7
	子どもを不安定にしたり意欲を失わせたりしないような配慮が必要です。失敗したことを全体の場で叱責すると逆効果の場合があります。	
5	<b>支え合う学級づくり</b>	/9
	認識の違いによる混乱やトラブルの防止のため、ルールは全員が分かるようにします。視覚的な情報を併用しながら手順を追って伝えることが大切です。	

